

## 日の丸拝揚に思う

小山町遺族会 遠藤豪

私の家では、父親の弟、いわゆる叔父が3人戦死しております。こんな思い出があります。私が小学校五、六年生の頃、学校で先生から『国民の祝日には、日の丸を各家庭で揚げましょう』との話がありました。しかし我が家では、これまで一度も揚げたことはありません。決して考え方の違いなどの理由からではありません。当時私が祖父に「なぜ家では日の丸を飾らないのか」と子供心に不思議に思っていたことを話した時です。いつも気丈夫な祖父が突然涙を流し、こう言いました。

「豪や、うちでは俺の息子4人が国に応召され3人が帰って来なかった。これだけ日本と言う国に奉仕したのに、今、平和になったとはいえ日の丸を揚げることは、戦死した子供達に申し訳が立たない」と話しました。私もおもわず、涙が込み上げてきた事を今でも鮮明に覚えております。以来私も、日の丸を飾った事はありません。決して日本と言う国が嫌いな訳ではなく、愛国心がない訳でもありません。ただ心の問題として私の代まではそうするつもりです。

今、遺族会の役員となり、護国神社や靖国神社などの参拝をする機会が増えてまいりました。そこで気付くのが靖国神社の合祀の問題です。これについては、様々な意見がありますので、あえてどれが正しいなどとは言えませんが、天皇陛下をはじめ誰もが参拝出来、諸外国からも批判をあびることなく参拝出来る靖国神社であらん事を願ってやみません。

(平成28年4月発行の静岡県遺族会報より)